

「ヤエムグラ遊び」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

百人一首に、「八重葎(やへむぐら) しげれる宿のさびしきに 人こそ見えね 秋は来にけり」という一首がある。「八重葎」とは、つる性の植物が生い茂っている様子で、庭に雑草が繁茂し、荒れ果てている様子を表現している。それと同じ和名の植物に「ヤエムグラ」がある。



「ヤエムグラ」はアカネ科の越年草で、空き地や公園など、どこでも見られる雑草だ。茎を中心に、8枚の葉が「輪生」している。



特徴のない「つまらない雑草」なのだが、実は子どもたちには大人気の植物でもある。茎に小さな「トゲ」がたくさんあって、子どもの服に容易にくっつくのだ。節で切断して、一組の輪生葉にしてもくっつくし、茎ごと引っっこ抜いたままでもくっつく。

この日はよく晴れていたなので、新入生を1クラスずつ、大学構内の自然観察に連れて行った。10種類ぐらいの植物を見つけることができた。その中でも「ヤエムグラ」が一番人気だった。



ヤエムグラは、日当たりの良い空き地や林地の周縁部、並木の植え込みなどにごく普通に見られる。そのような環境には、「カラスノエンドウ」と一緒に群生していることが多い。写真の男の子は、両種の区別がつかず、一緒に根こそぎ採取してしまった。しかし、ヤエムグラの「粘着力」が強いので、こんなに束にしても、一緒に服にくっついてきた。



ヤエムグラは、天然繊維でも化繊でもよくつく。のりもつけないのに、植物が自分の服につくことが不思議で仕方ないのだ。1年生の子どもの中には、どこで覚えたのか「これ、ひっつき虫だ!」と言っている者がいた。「ひっつき虫」というのは、「オナモミ」「アメリカセンダングサ」などの、果実や種子が服につく種類を言うことが多い。ヤエムグラは、茎や葉がくっつくので特別だ。しかし、実はヤエムグラの果実もひっつき虫だという。時期が来たら、試してみたい。